

2024 年 1 月 26 日

The Emerging Markets Weekly

月末に FOMC を控える中、総じて小幅な値動き

新興国市場:先週末 22 日のアジア時間の新興国通貨は大半が小幅な値動き。TWD は総統選後の不安定な相場が一段し堅調。MYR は冴えない GDP の結果を受けて、上値重く推移。欧米時間、米経済指標の結果を背景に米金利は一時上昇するも長続きせず。ドルは軟化し、新興国通貨が買われた。RUB は前日比+1.6%上昇する一方、ZAR は値を下げた。週初 22 日、アジア時間の新興国通貨は中国株式の軟調が重しとなり、下押しされた。PHP や THB が売り優勢。TWD は続伸。欧米時間、主要中銀の金融政策会合を控え、上値重く推移。BRL は前日比▲1.1%、ZAR も下落した。23 日のアジア時間の新興国通貨は方向感の欠く値動き。中国当局が約 2 兆元規模の株式支援対策を検討しているとの報道を背景に CNY は上昇。KRW も堅調。欧米時間は米金利の上昇が新興国通貨の重しに。RUB や MXN は下落したが、ZAR や BRL は買われた。24 日、アジア時間の新興国通貨は大半が乏しい値動き。IDR は 2 月 14 日に大統領選挙を控え、政治的不透明感が下押し要因に。KRW も軟調。欧米時間、米金利に連れてドルは下落して新興国通貨は上昇。しかし、米 1 月 PMI (速報) が市場予想を上振れると米金利とともにドルも反発。新興国通貨は上昇幅を縮めたが、ZAR や MXN は値を伸ばした。25 日、アジア時間の新興国通貨は動意に欠く展開。IDR は引き続き政治的な先行き不透明感が嫌気されて売りが先行、週間で▲1.3%の下落となった。欧米時間、ECB 政策理事会では夏以降の利下げが示唆されたことで、東欧通貨は軟調な値動き。片や、国内株式市場の上昇もあって、MXN や BRL は底堅く推移した。

アジア:19 日発表のマレーシア 23 年 10~12 月実質 GDP 成長率は前年比+3.4%と市場予想を下回った。また、23 年の実質 GDP 成長率も前年比+3.8%と 22 年から大幅に減速、MYR の重しとなった。中国人民銀行(PBoC)は 22 日、最優遇貸出金利(LPR)の 1 年物を 3.45%、5 年物も 4.20%にそれぞれ据え置くことを決定。同日発表のマレーシア 12 月消費者物価指数(CPI)は前年比+1.5%と 11 月から横ばいとなり、21 年 2 月以来の低い伸び率となった。23 日発表のシンガポール 12 月 CPI は前年比+3.7%と前月から加速し、市場予想を上振れた。24 日に PBoC は預金準備率(RRR)を 50bp引き下げることを発表。2 月 5 日から適用される。同日、マレーシア中央銀行(BNM)は政策金利を 3.00%に据え置くことを決定。据え置きは 4 会合連続。タイのセター首相は、タイ経済は危機的状況にあると指摘し、デジタル通貨給付措置に加え、一段の景気刺激策を打ち出す方針を示した。25 日公表の 23 年韓国 10~12 月期実質 GDP 成長率は前年比+2.2%と 7~9 月期から加速し、市場予想を上振れた。年間では前年比+1.4%と 22 年から減速した。

中東欧・アフリカ:24 日発表の南アフリカ 12 月 CPI は前年比+5.1%と前月から鈍化し、市場予想も下回った。トルコ中央銀行(TCMB)は 25 日に政策金利を市場予想通り 25bp 引き上げたが、TRY 相場への影響は限定的だった。

金融市場部
マーケット・エコノミスト

堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

長谷川 久悟
03-3242-7065
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜
03-3242-7065
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

欧州資金部
シニア為替ストラテジスト
中島 将行
masayuki.nakajima@mizuhoemea.com

市場概観(インドネシア)

大統領選挙プレビュー～三度目の正直なるか～

金融市場部
長谷川 久悟
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

インドネシアでは、2 月 14 日に大統領選挙の投票日を控える。ジョコ・現大統領の再選は憲法で禁止される中、3 名の立候補者が討論会などを通し選挙戦を戦っている。なお、インドネシアの大統領選挙は、候補者が副大統領とセットで出馬する形態となっており、投票者は正副大統領候補のセットから、投票先を選択する運びとなっている。なお、2 月の投票において過半数を上回る票を獲得する候補者が現れなかった場合は、上位 2 名による決選投票が 6 月に実施される予定となっている。本欄では、3 組の候補者のプロフィールや主張する政策、現状の支持率を確認したのち、金融市場への影響を簡単に整理したい。

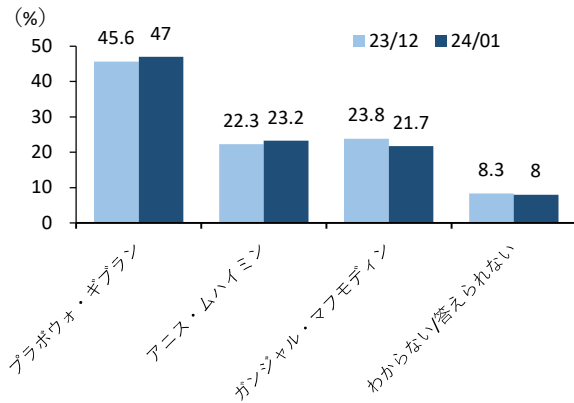
まず、第一の候補者は、プラボウォ・スピアント国防相だ。同氏は、過去 2 回の大統領選挙でジョコ氏に敗北しており、今回は「三度目の正直」を狙う立場にある。副大統領候補には、ジョコ氏の長男、ギブラン・ラカブミン氏(ラカルタ(ソロ)市長)を擁立しており、ジョコ氏の人気を最大限活用する構えだ。主張する政策としては、現状路線を引き継ぐ姿勢を明言しており、首都移転プロジェクトや、資源の「川下化政策」(*)を継続させることを強調した。第二の候補者は、ガンジャル・プラノウォ前中部ジャワ州知事だ。副大統領候補には、マフモディン(マフッド・MD)政治・法務・治安担当調整大臣を擁立している。ジョコ氏を支える与党、与党闘争民主党からの出馬であり、当然のごとく、主張する政策も、現状路線の継続だ。この点、プラボウォ氏の主張との差別化は難しい。第三の候補者は、アニス・バスウェダン前ジャカルタ特別州知事だ。同氏はムハイミン・イスカンダル国会副議長兼民族覚醒党(PKB)党首を副大統領候補に擁立しており、現状路線の否定を主張している。具体的には、首都移転計画の見直しを叫び、その予算を福祉やインフラ整備に回すことを主張している。なお、資源の「川下化政策」に関しては、大きな政策転換は主張していない。

次に、足許の世論調査を確認したい。Lembaga Survei Indonesia が、1 月 20 日に公表したサーベイ(1 月 10～11 日に実施)を参考にすると、3 組の正副大統領候補のうち、プラボウォ氏・ギブラン氏の組み合わせが優勢な状態が続いている(図表 1、2)。もっとも、支持率には頭打ち感もあり、過半数の 50%に届いていないことも重要である。残りの 2 組に目を移せば、ガンジャル氏・マフモディン氏の失速が目立つ一方で、アニス氏・ムハイミン氏は徐々にではあるが支持率を伸ばしている。とはいえ、いずれのペアも支持率は 20%台であり、やはり優勢とは言い難い状態だ。背景としてはジョコ・現大統領への支持率の高さがあると考えられ(図表 3、4)、同氏の正統な後継者とみなされる、プラボウォ氏・ギブラン氏の組み合わせが人気を集めるのも必然だ。このような情勢に鑑みれば、選挙が 1 回で終わらず、結果が 6 月の決選投票に持ち越しになる可能性は相応にあるが、プラボウォ氏・ギブラン氏のペアが当選する公算は非常に大きい。

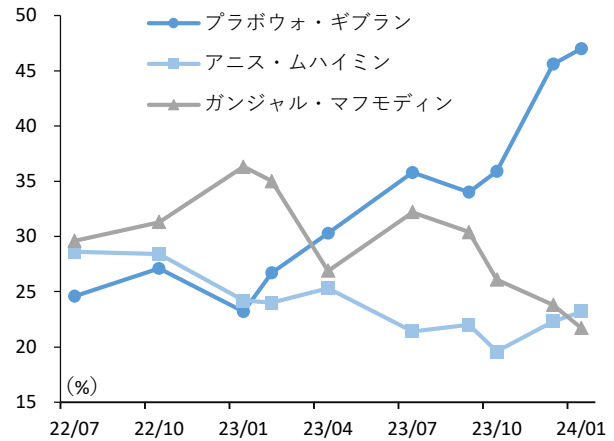
IDR 相場にとってみれば、プラボウォ氏・ギブラン氏の当選は、現状路線の継続であり、それほど材料視されない可能性が高いだろう。しかしながら、2 月の選挙でアニス氏・ムハイミン氏陣営が予想外に得票率を伸ばした場合、第二回投票に向けては政治不透明感から IDR は売られやすいと見込んでいる。ただし、その場合でも、ガンジャル氏・マフモディン氏に投票した人々の多くがプラボウォ氏・ギブラン氏陣営の支持に回することは想像に容易く、同陣営の牙城を崩すことは非常に難しい。結果、プラ

ボウォ氏・ギブラン氏の当選が固まれば、不透明感も後退に向かうだろう。総じて、国内の政治リスクはそれほど材料視されない展開を予測している。

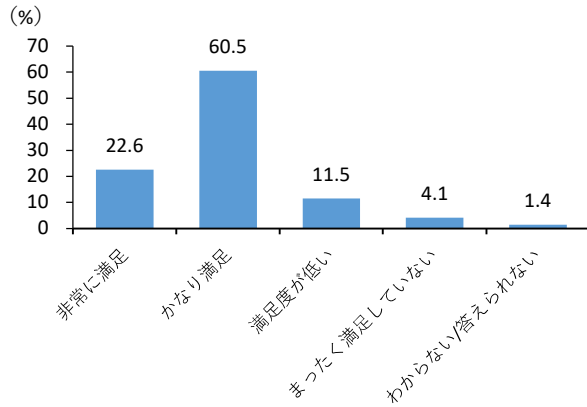
(*) 豊富な資源をそのまま輸出するのではなく、国内で加工し、中間財や完成品のかたちで輸出することを意図した政策。産業振興や雇用創出を目的としている。同政策の下、産業支援策にとどまらず、資源の禁輸や輸出制限に動くなど、保護主義的な政策に傾斜しつつある。

図表 1: 各候補者の支持率


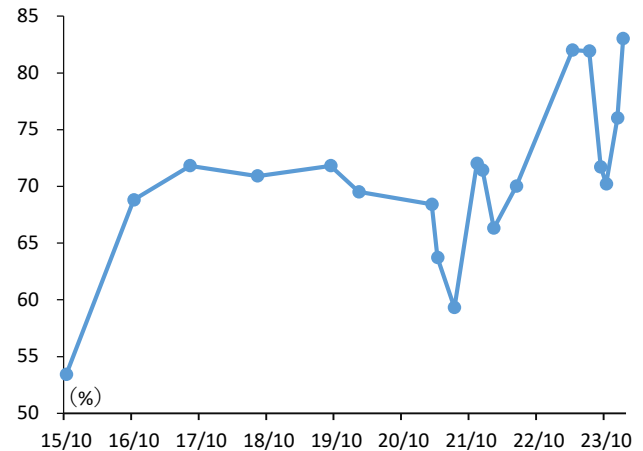
出所: Lembaga Survei Indonesia、みずほ銀行

図表 2: 各候補者の支持率推移


出所: Lembaga Survei Indonesia、みずほ銀行

図表 3: ジョコ大統領の支持率(1月調査)


出所: Lembaga Survei Indonesia、みずほ銀行

図表 4: ジョコ大統領の支持率推移


市場概観(ブラジル)

ルラ政権は新たな産業奨励策を公表、再び財政懸念が争点になるか

金融市場部
長谷川 久悟
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

1 月 22 日の新興国市場では、米利下げ観測の後退とともに、中国株を中心に、株式市場の下落が目立った。かかる中、多くの新興国通貨が対ドルでの下落を余儀なくされたが、中でも BRL の下げは突出しており、引け値ベースでは前日比▲1.11%となっている。この下げは、ルラ大統領が、「新産業ブラジル(New Industry Brazil)」と題した新たな産業奨励計画を公表し、市場で先行きの財政懸念や格付引き下げリスクが意識されたことに起因している。本欄では、「新産業ブラジル」の概要をまとめるとともに、財政や金融市場への影響を簡単に説明したい。

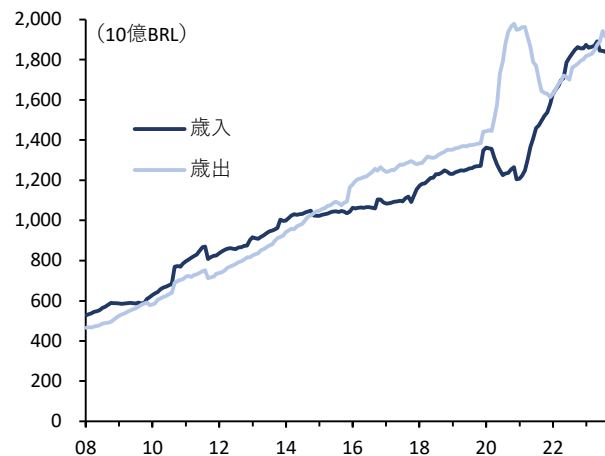
「新産業ブラジル」は、総額 3000 億 BRL の融資計画であり、医療や防衛、農業の分野に資金が向けられるものとなっている。現状の計画では、融資の大半は、工業地帯の近代化や拡大に活用されるとしている。一部は、グリーンエネルギーや脱炭素などの分野にも活用される予定だ。なお、資金の大部分は、ブラジル国立経済社会開発銀行(BNDES)が調達する運びとなっている。ルラ大統領は、「ブラジルが競争的となるためには、輸出産業に資金を融通する必要がある」「国際市場はとても競争的で、まるで戦争だ」と、輸出競争力を高める狙いがあると強調した。BNDES の CEO も、「国家と市場の新たな関係なしに、域内産業を再建することはできない」としている。

もっとも、市場がこれを嫌気したことからもわかる通り、注目されたのは「新産業ブラジル」による経済活性化ではなく、これにより予想される財政への悪影響のほうだった。ルラ政権は、今年度(2024 年 1 月～12 月)の目標として、プライマリーバランスの均衡を設定しているが、これはすでに足許では厳しい推移となっている(図表 1)。このような状況下での「新産業ブラジル」公表であっただけに、市場の反応にもうなずける。かかる中、ブラジル議会は 2 月に再開されるが、歳入増に向けた議論が活発化されるものと予定される。ここもと、歳入の頭打ち感も鮮明になってきており(図表 2)、どのような交渉がなされるかに注目が集まっている。

過去の『通貨ニュース』でも指摘した通り、2023 年には、新たな財政規則案の制定や税制簡素化法案の可決などを受け、米大手格付機関が相次いで長期債務格付の引き上げを決定した。こうした流れや、財政に対する楽観姿勢が BRL 相場を支えてきたとも考えているわけだが、こうした動きの「賞味期限」はすでに切れつつある。実際、ルラ大統領は、プライマリーバランスの均衡化を軽視するような発言も断続的に行っている。もっとも、アダジ財務相をはじめ、こうした発言をけん制し、財務規律の重要性を主張する政府高官が多く存在することは好感できる。とはいえ、「新産業ブラジル」の公表や直後の市場における反応を踏まえても、財政をめぐる議論は、BRL にとって今後は逆風として作用する可能性が高いと考えたい。

図表 1: プライマリーバランス (GDP 対比、12 か月合計)


出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: 歳入と歳出


出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

市場概観(マレーシア)

1 月金融政策会合～外部環境の変化を見極める時間帯が続く

金融市場部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

マレーシア中銀(BNM)は 24 日の金融政策委員会(MPC)で、政策金利を従来の 3.00%に据え置いた。政策金利の現状維持は 4 会合連続での決定となった(図表 1)。ブルームバークの事前予想でも現状維持の予想が有力であった。

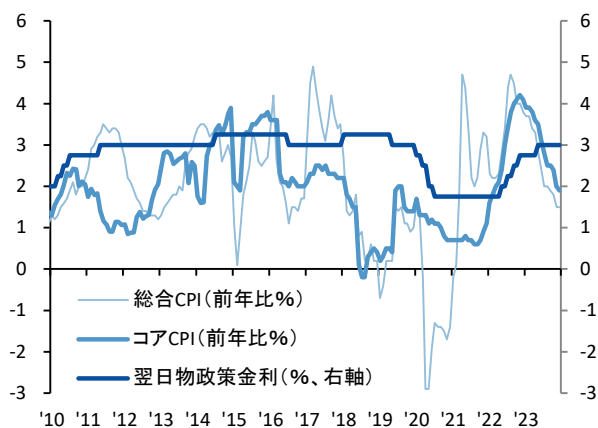
直近のマレーシア経済について、10～12 月期実質 GDP 成長率は前年同期比 +3.4%と 7～9 月期の同+3.3%から小幅に加速したが、市場予想の同+4.1%を下回った(図表 2)。支出別の詳細項目は今後公表予定ではあるが、主に建設業や製造業の成長鈍化が影響した格好となった。23 年の年間成長率は前年比+3.8%となる見込みで、政府予想の同+4.0%を下回ることになりそうだ。政府は 24 年の成長率に関して、マレーシアの主要産業である電子機器産業で持ち直しの兆候が強く現れてきていること、観光業の成長加速などを要因に挙げた上で同+4.0～+5.0%に設定し、23 年と比較して成長が加速するとした。もっとも、こちらも外部環境次第で上下する可能性が大きいことは念頭に置きたい。

物価動向に関して、直近公表の 12 月消費者物価指数(CPI)は前年比+1.5%、生鮮食品と政府による価格統制品を除くコアベースでは同+1.9%となった(図表 3)。引き続き、総合 CPI<コア CPI の構図となっているが、サービス価格の高止まりに対する懸念も後退している印象を受ける。実際に、10～12 月期は BNM が想定していた水準以下での動きとなっており、24 年についても具体的な数字への言及は無かったが、2%程度での推移が継続すると予想される。一方で、天候不順による食料品価格上昇、政府による燃料・電力補助金の廃止や 3 月からのサービス税増税が今後のインフレ要因と見られる。

かかる中、BNM はインフレ動向に配慮しながら持続的に景気支援を行う方針を示した。声明文や会見においても、米国の金融政策動向や中国をはじめ世界経済の動きを見極めていく思惑が見て取れ、現状の金融政策指針を維持しながら政策転換のタイミングを窺っていくことが 24 年の政策運営の基本線となりそうだ。

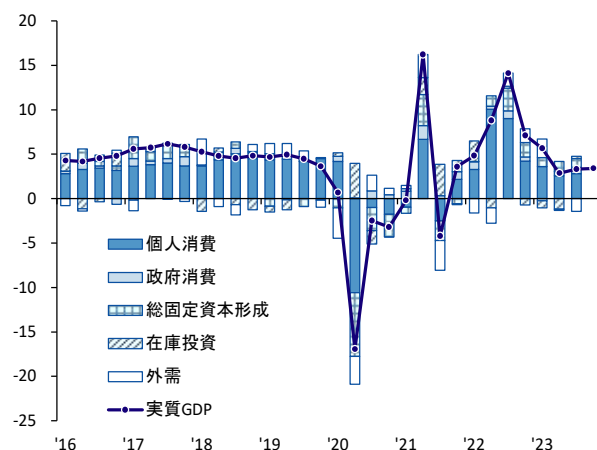
また、政策運営の 1 つに、外為市場の安定化に向けて十分な流動性を供給するとの言及もあったが、足許の MYR は米国の利下げ期待の浮き沈みに付随したような相場つきとなっている(図表 4)。こうした点を踏まえれば、月末に控える FOMC での情報発信は短期的な相場変動要因となり、注目度は必然的に高まるだろう。この他、直近数か月の動きにも見られるように外需の動向やリスク心理の悪化には敏感に MYR 安で反応する傾向にあり、仮に今後 FRB による利下げ期待が強まった場合でも、急激な資源価格の下落や国内及びアジア経済の停滞懸念が高まれば対ドルでの上昇は限定的となることも考えられる。当面はマレーシアの国内要因よりも外部要因の変化が通貨の選好に直結すると予想されるが、春先までは引き続き MYR 安方向の相場変動に警戒したい。

図表 1: 政策金利と消費者物価指数(CPI)



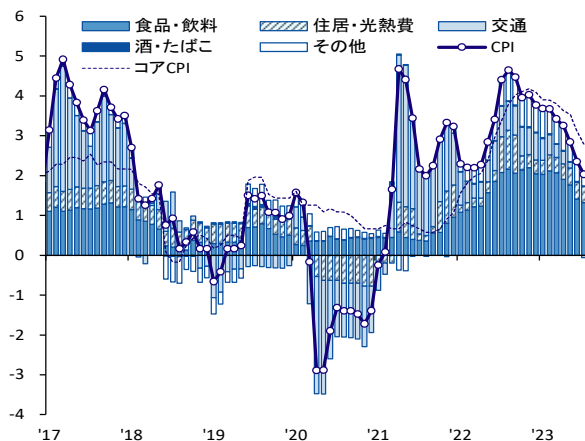
出所: マレーシア中央銀行、マレーシア統計局、CEIC、ブルームバーク、みずほ銀行

図表 2: 実質 GDP 成長率の推移 (前年比%、%ポイント)



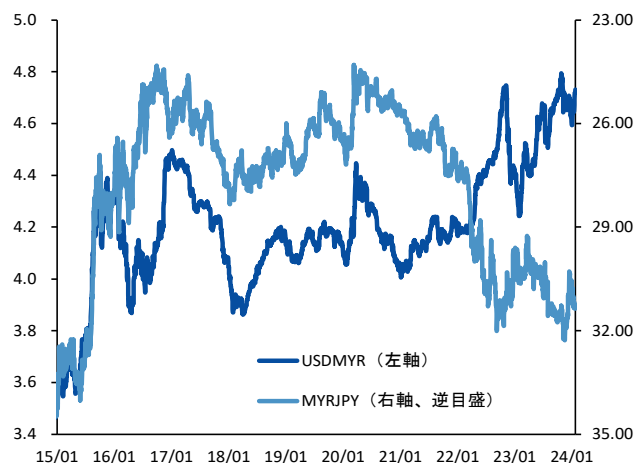
出所: CEIC、みずほ銀行 ※23 年 10~12 月期は成長率のみ

図表 3: CPI の動向 (前年比%、%ポイント)



出所: CEIC、みずほ銀行

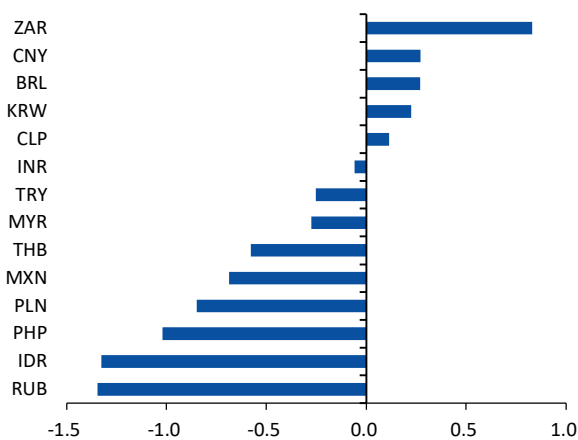
図表 4: MYR の動向



出所: ブルームバーク、みずほ銀行

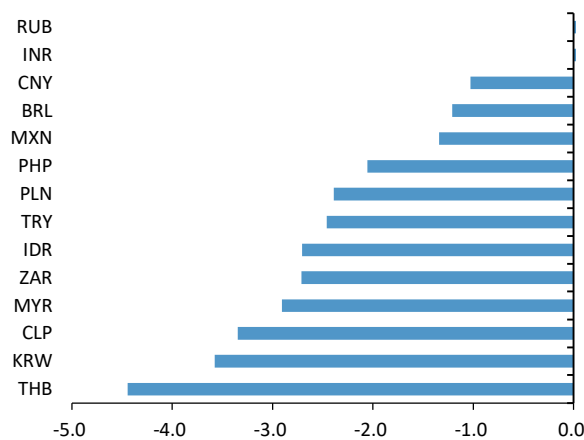
資産別騰落率

為替週間騰落率(対ドル、%)



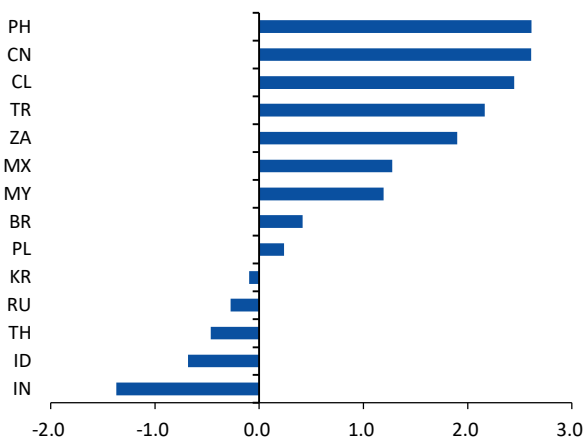
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

為替年初来騰落率(対ドル、%)



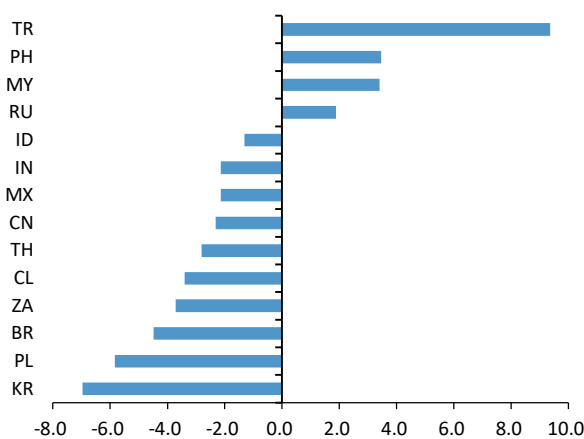
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

株価週間騰落率(%)



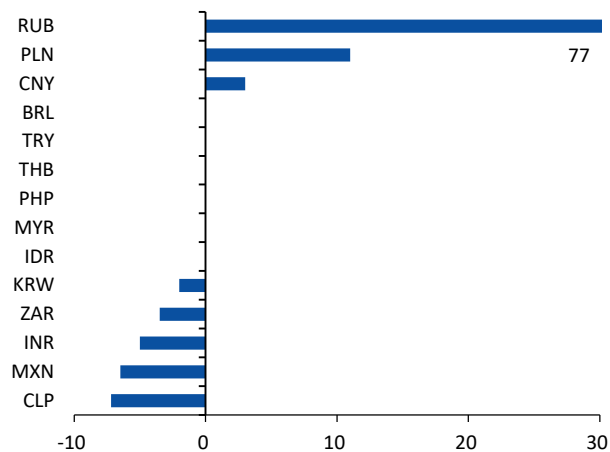
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

株価年初来騰落率(%)



出所: ブルームバーク、みずほ銀行

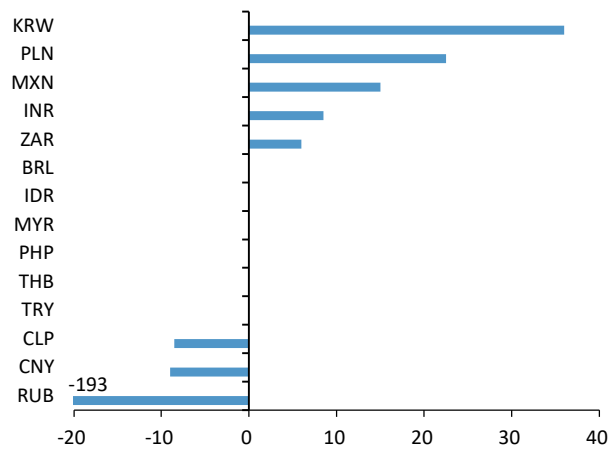
5 年物スワップレート週間変化(bp)



注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーク、みずほ銀行

5 年物スワップレート年初来変化(bp)



注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーク、みずほ銀行

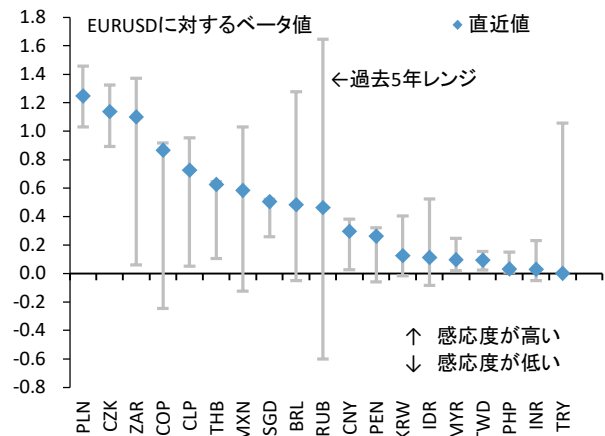
チャート集

主要新興国への証券投資(4 週間移動平均)



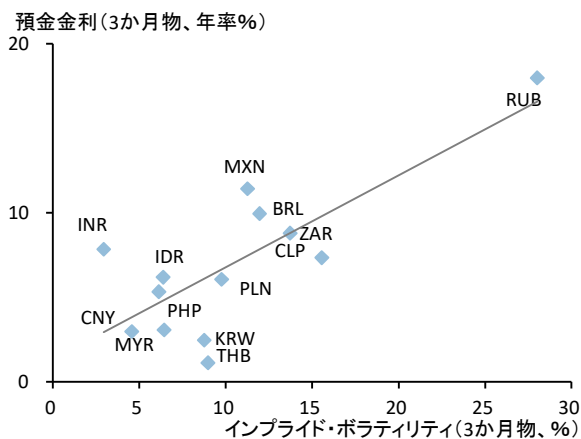
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

EM 通貨(対ドル)の EURUSD に対する感応度(過去 12 か月)



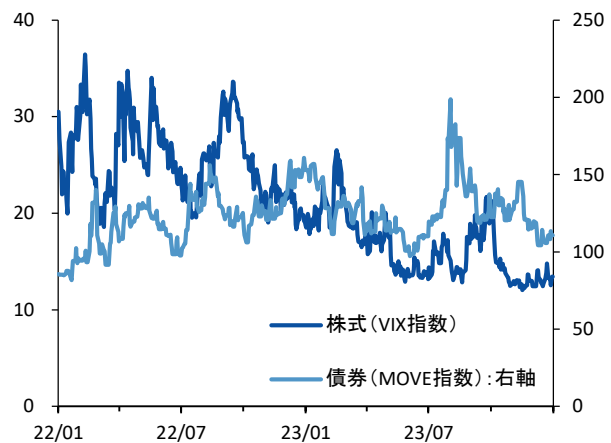
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国の預金金利と為替ボラティリティ



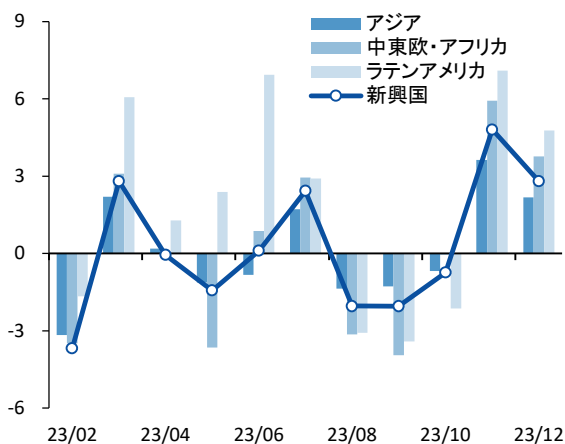
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株式と債券のボラティリティ(VIX 指数、MOVE 指数)



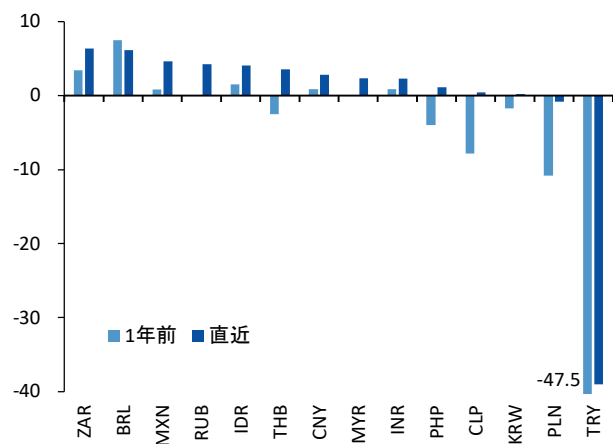
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国現地通貨建て国債月次パフォーマンス(%)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

実質金利(10 年物国債金利 - 消費者物価上昇率、%)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
1月22日 (月)	マレーシア	CPI(前年比)	1.5%	1.5%	1.5%	--
22日 (月)	台湾	輸出受注(前年比)	-1.0%	-16.0%	1.0%	--
23日 (火)	韓国	PPI 前年比	--	1.2%	0.6%	--
23日 (火)	シンガポール	CPI(前年比)	3.5%	3.7%	3.6%	--
23-28日	タイ	貿易収支(通関ベース)	-\$1465m	--	-\$2400m	--
24日 (水)	韓国	消費者信頼感	--	101.6	99.5	--
24日 (水)	マレーシア	BNM翌日物政策金利	3.00%	3.00%	3.00%	--
25日 (木)	韓国	景況判断(製造業)	--	71	69	--
25日 (木)	韓国	GDP(前年比)	2.1%	2.2%	1.4%	--
26日 (金)	フィリピン	貿易収支	-\$4500m	--	-\$4694m	--
26日 (金)	シンガポール	鉱工業生産(前年比)	1.0%	--	1.0%	--
27日 (土)	中国	工業企業利益(前年比)	--	--	29.5%	--
31日 (水)	韓国	鉱工業生産(前年比)	--	--	5.3%	--
31日 (水)	中国	製造業PMI	--	--	49.0	--
31日 (水)	中国	非製造業PMI	--	--	50.4	--
31日 (水)	フィリピン	GDP(前年比)	--	--	5.9%	--
31日 (水)	タイ	国際収支・経常収支	--	--	-\$1244m	--
31日 (水)	台湾	GDP(前年比)	--	--	2.3%	--
2月1日 (木)	韓国	輸出(前年比)	--	--	--	5.0%
1日 (木)	韓国	貿易収支	--	--	--	\$4457m
1日 (木)	中国	Caixin中国製造業PMI	--	--	50.8	--
1日 (木)	インドネシア	CPI(前年比)	--	--	2.6%	--
2日 (金)	韓国	CPI(前年比)	--	--	3.2%	--
2日 (金)	シンガポール	購買部景気指数	--	--	50.5	--
中東欧・アフリカ						
1月24日 (水)	南ア	CPI(前年比)	5.2%	5.1%	5.5%	--
25日 (木)	ロシア	PPI 前年比	--	19.2%	21.9%	--
25日 (木)	トルコ	製造業景況感指数(季調前)	--	100.9	99.1	--
25日 (木)	トルコ	設備稼働率	--	76.2%	77.5%	--
25日 (木)	南ア	PPI 前年比	4.3%	4.0%	4.6%	--
25日 (木)	トルコ	1週間レポレート	45.00%	45.00%	42.50%	--
25日 (木)	南ア	SARB政策金利発表	8.25%	8.25%	8.25%	--
31日 (水)	トルコ	貿易収支	--	--	-5.92b	--
31日 (水)	南ア	貿易収支(ラント)	--	--	21.0b	--
2月1日 (木)	ロシア	鉱工業生産(前年比)	--	--	4.3%	--
ラテンアメリカ						
26日 (金)	メキシコ	貿易収支	1552.5m	--	629.9m	--
26日 (金)	ブラジル	IBGEインフレ率IPCA-15(前月比)	0.5%	--	0.4%	--
29日 (月)	ブラジル	純債務対GDP比	--	--	59.5%	--
30日 (火)	ブラジル	FGVインフレIGPM(前月比)	--	--	0.7%	--
30日 (火)	メキシコ	GDP(季調前/前年比)	--	--	3.3%	--
2月1日 (木)	ブラジル	SELICレート	11.25%	--	11.75%	--
2日 (金)	メキシコ	送金総額	--	--	\$4908.1m	--
2日 (金)	ブラジル	鉱工業生産(前年比)	--	--	1.3%	--
2日 (金)	メキシコ	総設備投資(季調前、前年比)	--	--	25.5%	--

注: 2023 年 1 月 26 日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替相場見通し

	2023年 1～12月(実績)	SPOT	2024年 3月	6月	9月	12月	2025年 3月
対ドル							
エマー・ジグアジア							
中国人民元 (CNY)	6.6910 ~ 7.3503	7.1739	7.05	7.00	7.00	6.95	6.90
香港ドル (HKD)	7.7861 ~ 7.8500	7.8186	7.80	7.80	7.79	7.78	7.77
インドルピー (INR)	80.883 ~ 83.478	83.116	83.8	84.5	83.5	82.0	80.8
インドネシアルピア (IDR)	14565 ~ 15969	15825	15400	15710	15520	15350	15200
韓国ウォン (KRW)	1216.30 ~ 1363.67	1337.60	1280	1270	1260	1240	1230
マレーシアリング (MYR)	4.2250 ~ 4.7937	4.7315	4.62	4.73	4.68	4.61	4.58
フィリピンペソ (PHP)	53.628 ~ 57.084	56.549	55.2	56.9	56.0	55.2	54.8
シンガポールドル (SGD)	1.3032 ~ 1.3764	1.3404	1.34	1.38	1.35	1.33	1.32
台湾ドル (TWD)	29.608 ~ 32.509	31.306	30.5	30.0	29.6	29.2	29.0
タイバーツ (THB)	32.57 ~ 37.24	35.75	35.5	36.1	35.2	34.2	34.0
ベトナムドン (VND)	23415 ~ 24620	24613	24300	24500	24100	24000	23900
中東欧・アフリカ							
ロシアルーブル (RUB)	67.0415 ~ 102.3371	89.1553	90.0	92.0	94.0	96.0	98.0
南アフリカランド (ZAR)	16.6950 ~ 19.9204	18.8816	18.0	18.4	18.8	19.2	19.6
トルコリラ (TRY)	18.4339 ~ 29.5964	30.3000	29.5	30.0	29.0	28.0	27.0
ラテンアメリカ							
ブラジルリアル (BRL)	4.6967 ~ 5.4798	4.9166	5.00	5.10	5.03	5.00	5.00
メキシコペソ (MXN)	16.6262 ~ 19.5882	17.2097	17.9	18.2	18.4	18.5	18.6
対円							
エマー・ジグアジア							
中国人民元 (CNY)	18.793 ~ 20.945	20.607	19.72	19.57	19.29	19.28	19.57
香港ドル (HKD)	16.295 ~ 19.457	18.896	17.82	17.56	17.33	17.22	17.37
インドルピー (INR)	1.559 ~ 1.823	1.777	1.66	1.62	1.62	1.63	1.67
インドネシアルピア (100IDR)	0.831 ~ 0.975	0.934	0.903	0.872	0.870	0.873	0.888
韓国ウォン (100KRW)	9.915 ~ 11.674	11.045	10.86	10.79	10.71	10.81	10.98
マレーシアリング (MYR)	29.106 ~ 32.387	31.223	30.09	28.96	28.85	29.07	29.48
フィリピンペソ (PHP)	2.325 ~ 2.715	2.612	2.52	2.41	2.41	2.43	2.46
シンガポールドル (SGD)	96.55 ~ 112.24	110.22	103.89	99.28	99.78	100.90	102.12
台湾ドル (TWD)	4.205 ~ 4.755	4.722	4.56	4.57	4.56	4.59	4.66
タイバーツ (THB)	3.770 ~ 4.290	4.133	3.92	3.80	3.84	3.92	3.97
ベトナムドン (10000VND)	0.5430 ~ 0.6235	0.5997	0.57	0.56	0.56	0.56	0.56
中東欧・アフリカ							
ロシアルーブル (RUB)	1.422 ~ 1.948	1.658	1.54	1.49	1.44	1.40	1.38
南アフリカランド (ZAR)	6.909 ~ 8.337	7.824	7.72	7.45	7.18	6.98	6.89
トルコリラ (TRY)	4.744 ~ 7.482	4.872	4.71	4.57	4.66	4.79	5.00
ラテンアメリカ							
ブラジルリアル (BRL)	23.723 ~ 31.212	30.030	27.80	26.86	26.84	26.80	27.00
メキシコペソ (MXN)	6.651 ~ 8.778	8.585	7.77	7.53	7.34	7.24	7.26

注: 1. 実績の欄は 2023 年 12 月 31 日まで。SPOT は 1 月 26 日の 9 時 5 分頃。

2. 実績値はブルームバーグの値。

3. 予想の欄は四半期末の予想。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。